

友野和子

かわせみ通信

No. 10 2025.4

ホームページを
開設しました！

ここ近年、スエズ運河を避けた豪華客船が日本に寄港するようになり、コロナ禍に進められた DX 対策と円安が重なり、インバウンドで経済が回復してきました。また市の観光協会は、シビックプライドの醸成と地域の活性化を目指しており、地域の枠を超えた循環型経済を模索して進められてきております。令和7年度は、少子高齢化による現役の社会保障費の負担軽減や人材不足の問題をいかに乗り越えるかが課題です。地域が一体となって取組む福祉の包括事業やボランティア団体の活動は DX を活用して人を繋げることが出来るかは自治体の課題となっていると感じております。

2024 年

9 月議会より

● 公民連携子どもの居場所について。

会派の視察で行った大阪門真市では子どもの貧困対策のネットワーク事業を地域が一体となって進めていました。それらを参考に不登校など子どもの対応の事業の在り方を問いました。清瀬市のこども家庭支援センターは、その役割を持つ場所ですが、学校（先生）と学校支援本部（地域）の連携で子ども達が安心して過ごせる地域づくりを進めている段階です。組織の壁を取り払い、また市民の協力を繋げるサードプレイスとしての子どもの居場所を問いました。



「中里山戸広場」に新しい遊具が設置されました。

● 清瀬の中央公園に設置される夢空間の創造について。

- クラウドファンディングの返礼品：物だけでない体験への提案。
- 中央公園ならではの夢空間利用の取組み：結核研究所の国際交流のもてなし、清瀬の俳句の会の開催、清瀬の自然観察会等。夢空間コラボ企画の提案。

2024 年

12 月議会より



● 市と清瀬高校の交流について。

自立にむけた高等教育の在り方を考えるにあたり、商店街の活性化、夢空間駅弁のアイデア募集、夢空間前でダンスのパフォーマンスの SNS 発信など、市外から清瀬にきている高校生に清瀬の魅力を発信してもらう事で双方のアイデンティティを育てる機会を創ってはどうか？

● 図書館跡地の子どもの居場所について

下宿図書館：複合施設の中には、子どもの居場所として児童館がある。スポーツ施設は夕方からは大人の団体が殆ど利用している。中高生からは、スマホも使えるパーテーションのある学習室の要望がある。みえてきた課題は子ども達を見守る大人の存在でした。

元町図書館：公民連携のサードプレイスとして、今後の事を考えて子ども達の教育活動に関わる団体が、まずは自由に使える場とし市民の文化的な活動を応援してみてはどうか？



下宿市民センターの「サロン」



2024 年
12 月議会より

「清瀬市立図書館の設置に関する住民投票条例」 制定の臨時議会について



2025 年 2 月 3 日。新しい時代に合わせた図書サービスと同時に図書館が 6 館から 2 館となることに対して反対の陳情が集まり、住民投票を求める条例を求める臨時議会が開かれました。

市では、市民の生涯学習を総合的に取り組んでいるので紹介します。

子ども達への対応：学校のタブレットで検索・予約をし、学校で本を受け取る。学校司書の日数拡充。よみきかせボランティアの育成や学校図書の充実を進める。子ども図書館を駅前図書館内に OPEN！

大人の方への対応：下宿・竹丘・野塩市民センターでは、新聞や書棚の本を読み、学習も飲食もでき、図書の検索機があるサロンが OPEN！新しいサービスとして、スマホやコンピュータで本を検索・予約をし、宅配で本が届く「おうち図書館」が 4 月にスタート！駅前図書館がリニューアルされて椅子が増える。

すでに、中里・中清戸市民センターでは学習室が開かれて利用が進んでおり、様々な空間での市民の居場所づくりを総合的に取り組んでいます。市議会で話し合われてきた議論は、市民には伝えられてないのではないか？また対立の形ではない市民への広報の在り方や市民参画の在り方を模索した臨時議会でした。

清瀬市立
駅前図書館
こども図書館

西友 4 階の駅前図書館
に新しく併設された
「子ども図書館」



中里市民センターの
学習室「エチュード」の

2025 年
3 月議会より

民と官の 棲み分けに ついて

● 学校と部活動の地域連携について。

部活動は公平さも問われます。学校の施設を使ってできるものとそうでないもの。地域に移行の際の費用負担の在り方について問いました。

● 市民参画と広報の在り方について。

子どもの居場所検討委員会や夢空間活用検討委員会では、市民と専門家と関係者の間で活発な意見が出てきているが、その取り組みを広報紙で取り上げることににより、市民の理解や協力が得られるのではないかと問いました。

● 夢空間の活用と運営について

夢空間という文化財を扱うとなると保存と活用に応じたメンテナンス計画には博物館関わりが重要である。市民と一緒に文化で国際交流を進めてきた豊島区の事例を参考に総合施設の今後の組織の在り方を問いました。



柳瀬川通りの「清瀬花の里公園」が OPEN！
防災公園としても指定され、みんなで
つくる公園です。



渋谷のぶゆき都議と清瀬自民クラブの会派のメンバーで、緑陰
通りにオープンした清瀬喜望園を訪問し意見を交わしました。
体育館・BOOK カフェ・広場は地域の方が利用できるインクルー
シブの空間です。

